



地球大学アドバンス 第33回

[TOKYO SHIFT シリーズ 第5回]

超高齢化最前線TOKYO～100年前の都市デザインでいいのか？ 2010.8.23 mon

“TOKYO SHIFT”と銘打ち、地球目線で東京と日本のリデザインを考える今年度の地球大学——その5回目は気候変動、資源制約とならぶ第三のリスクマネジメント課題、「少子高齢化」に焦点を当てます。

今からわずか30年後の2040年頃には、日本の人口に占める高齢者の割合は40%に達すると予想されています。なかでも東京は、かつて地方から首都圏に集まり、日本の高度成長を支えてきた若者たち＝団塊の世代が一斉に高齢者となる「高齢化最前線」で、5年後の2015年には首都圏の高齢者人口は1000万人を突破する勢いです。

若い子育て世代(労働人口)の住まいとしてデザインされたが故に、高齢化に伴う矛盾や問題点が浮上してきている郊外のニュータウンをはじめ、首都圏全体が「健康な若者」とその長距離「通勤」、そして自動車交通を中心とした都市デザインになっている。この20世紀型のパラダイムの抜本的なリセットなしに、50年100年の計でサステナブルな東京と日本の未来を構想することはできません。

また長寿高齢化社会とは、健常と障害の二元論が成り立たなくなる時代——誰もが何らかの障害を持ちながら、何十年もQOLを維持しつつ暮らしていかなければならない時代です。今回はこうした観点から、WHOの新たな健康・障害指標ICF(International Classification of Functioning, Disability, and Health)の専門家である大川先生から、従来の「介護」や「福祉」の発想を超えた新たな人間観と都市デザインの尺度についてご提示いただきます。また丸の内の産業保険医でもある福田先生からは、高齢者予備軍としての企業人の健康管理に関する知見とともに、定年後までも視野に入れたエイジレスなキャリアモデル、それを支える職住一体型のまちづくりの可能性について提言いただきます。

開催概要

日時:2010年8月23日(月) 18:30～20:30

ゲスト:大川 弥生 氏

(国立長寿医療研究センター研究所 生活機能賦活研究部)

福田 洋 氏

(順天堂大学 医学部総合診療科・准教授)

企画・司会:竹村 真一 氏

Earth Literacy Program 代表

エコツェリア・コンテンツプロデューサー

会場:新丸ビル10階「エコツェリア」

地図:<http://ecozeria.jp/access.htm>

定員:50名(定員になり次第締め切りとさせていただきます)

参加方法:事前登録が必要です

事前登録URL <http://www.ecozeria.jp/earth/>

参加費:エコツェリア会員企業に所属の方:無料

*名刺にて照会いたします。名刺(社員証)を必ずご持参下さい。

エコツェリア会員企業非所属の方:有料2,000円

プログラム 18:00 受付開始/18:30 開演/20:30 閉会